

良い解決策に欠かせない2つの条件とは？ 《行政課題解決セミナー》

一前提が変わるということは、いままでうまく行ってきたことが、通用しないということ。新しい前提の中で、成果を出す良い解決策が求められます。今回のワークショップでは、良い解決策に欠かせない2つの条件を、シンプルに議論し、新しい前提で、目覚ましい成果を出す解決策を創る方法をワークショップで実践しながら効果を実感していただきます。(講師メッセージより)

《ワークショップレポート》

今回の行政課題は「コロナ蔓延下での水害避難」。新型コロナウイルス感染対策が進められる中でも、毎年必ず来る「水害シーズン」は待ってはくれません。3密対策などの感染症対策をすることで、避難所に4分の1の収容人数しか入れないとも言われており、新型コロナウイルス蔓延と水害が同時に起こったときに、「感染症リスクを考慮しつつに住民を安心・安全に避難させるか」という難しい問題に行政の関係機関は直面しています。国交省職員の前井さんは、水防の機関として、この問題に頭を悩ませていました。

ワークショップの冒頭、岸良さんによる「良い解決策」の解説が始まりました。

「問題とは現状と目標のギャップである」とは良く言われること。すなわち、目標を達成しない限り、問題は解決しないということであり、目標を達成しないと解決策とは言えない。

さらに、岸良さんは続けます。

良い解決策とは、目標を達成しかつ副作用が起きないもの。副作用を解消しないと、良い解決策にはならない。その副作用をあらかじめ解消する方法があります。

ワークショップが始まりました。まず、目標を「避難所で感染症対策をしなければならない」と定義。続いて「今やっていることは何ですか？」と質問し、目標達成の手段を洗い出します

続いて「副作用を無くす方法はありませんか？」と質問し、副作用の解消策を出します。

ネガティブなことからポジティブが生まれる。ネガティブを考えることは、とても大事。まずは解決策を認めてあげて、副作用の解消策を考えてあげる。

と岸良さんの解説。

付箋で解決策、副作用、副作用の解消策がまとめられました。

最後に、岸良さんから「オンラインのワークショップの方が、はるかに効率がいい。なぜならば、みんなが最前列でワークショップに参加できるからである。ポイントは、ビデオとマイクをオンにしてもらうこと。」とコメントがあり、セミナーが締めくくられました。

《今回の学び》

解決策を考えると満足している自分に気づかされました。解決策の副作用を考え、あらかじめ解消しておくことは、ステークホルダーの理解を得る上でも極めて重要。このステップは解決策の成功確率を高めることにつながるの、「絶対にやろう」と心に決めました。

《他の発表》

◆保育園休園中の園児と先生をつなぐ「TV電話で朝の会」の取り組み 行マ研副理事長 伊原

◆産廃業者から環境産業へのステージアップ支援の取組状況 詳細はコチラ (埼玉県庁のHP)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0502/gyoumu-haikibutu/stageup.html>



講師・ファシリテーター 岸良裕司



株式会社Goldratt Japan CEO。
全体最適のマネジメントサイエンスであるTOC (Theory Of Constraint:制約理論) をあらゆる産業界、行政改革で実践。最先端のTOC知識体系の、「楽しく」、「わかりやすく」、「実践的」な講義と、参加者をワークに集中させるファシリテーションから、たくさんの学びが得られると大好評である。

全体最適の行政マネジメント研究会について

・ 全体最適のマネジメント理論TOC(制約理論)を活用し、「お金を使わず知恵を使って」を合言葉に、行政、民間の参加者が垣根を越えて、日本をよくするために知恵を出し合い、問題解決に取り組むNPO法人。そのセミナーは、身近な行政課題を題材に、TOCを実践的に学べる場となっている。

・ 次回のセミナーは、2020年9月26日(土)にオンラインで開催予定(参加費無料)。先行予約受付中。

<https://www.kokuchpro.com/event/20200927tocgyousei/>